

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 1 月 28 日 (2016.1.28)

【公開番号】特開 2013-123220 (P2013-123220A)

【公開日】平成 25 年 6 月 20 日 (2013.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2013-032

【出願番号】特願 2012-268075 (P2012-268075)

【国際特許分類】

H 0 4 N 13/04 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 13/04

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 12 月 3 日 (2015.12.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

立体視画像の視差設定を表す情報の送信方法であって、前記立体視画像は、異なる 2 つの視点による同じシーンを表す第 1 の画像と少なくとも第 2 の画像を有し、

ある決定された時間に前記視差設定を表す情報を送信するステップを有し、前記送信する時間は、アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットに属することを特徴とする、方法。

【請求項 2】

アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットは、同期信号の受信時間により決まることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記送信する時間は、アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットの始めに属することを特徴とする、請求項 1 ないし 2 いずれか一項に記載の方法。

【請求項 4】

送信前に、視差設定を表す情報をメモリに記憶するステップを有することを特徴とする、請求項 1 ないし 3 いずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

前記視差設定を表す情報は無線伝送チャンネルを介して送信されることを特徴とする、請求項 1 ないし 4 いずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

前記立体視画像は、第 1 の画像と少なくとも第 2 の画像を含むビデオストリームに属し、異なる視差情報が各第 2 の画像に関連付けられていることを特徴とする、請求項 1 ないし 5 いずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

第 1 の画像と第 2 の画像を含む立体視画像の視差設定を表す情報を送信するように構成された装置であって、視差情報を表す前記情報を送信するように構成された送信器を有し、

アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットに属する、前記視差設定を表す情報の送信時間を決定するように構成された計算ユニットを有することを特徴とする、装置。

【請求項 8】

前記第 1 と第 2 の画像の表示シーケンスを表す情報を含む同期信号を受信するように構成された受信器を有する、
請求項 7 に記載の装置。

【請求項 9】

前記立体視画像の視差設定を修正するように構成された命令手段を有することを特徴とする、
請求項 7 ないし 8 いずれか一項に記載の装置。

【請求項 10】

立体視画像の視差レベルを調整する方法であって、前記立体視画像は、異なる 2 つの視点による同じシーンを表す第 1 の画像と第 2 の画像を有し、前記方法は、視差設定を表す情報を受信するステップを有し、

受信した視差設定を表す情報に応じて前記立体視画像の視差レベルを設定するステップをさらに有し、前記設定は、前記第 1 の画像の表示と前記第 2 の画像の表示の間の遷移時間とは異なる時間に処理されることを特徴とする、

方法。

【請求項 11】

同期信号を送信するステップを有し、前記同期信号は、前記第 1 と第 2 の画像の表示シーケンスを表す情報を含むことを特徴とする、
請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

視差レベルが設定される前に、視差設定を表す情報をメモリに記憶するステップをさらに有することを特徴とする、
請求項 10 ないし 11 いずれか一項に記載の方法。

【請求項 13】

前記設定の処理時間は、前記第 1 と第 2 の画像の一方の表示に対応する時間スロットに属する、
請求項 10 ないし 12 いずれか一項に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

有利にも、3次元装置によりレンダリングされる3次元コンテンツのフォーマットは、当業者に知られた3次元ビデオコンテンツの任意のフォーマットに対応し、左信号と右信号を含む立体視画像タイプの3次元コンテンツに限定されない。3次元コンテンツは、例えば、視差マップが関連するビデオ画像や、さらに右画像に対する左画像の視差マップは左画像に関連付けられ、左画像に対する右画像の視差マップは右画像に関連付けられた左画像と右画像のペアに対応する。一変形例によれば、3次元コンテンツは、3以上のビュー、例えば3ビュー、4ビュー、5ビュー又は10ビューを有する立体視画像に対応する。

なお、実施形態に関し次の付記を記す。

(付記 1) 立体視画像の視差設定を表す情報の送信方法であって、前記立体視画像は、異なる 2 つの視点による同じシーンを表す第 1 の画像と少なくとも第 2 の画像を有し、

ある決定された時間に前記視差設定を表す情報を送信するステップを有し、前記送信する時間は、アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にあ

る時間スロットに属することを特徴とする、方法。

(付記 2) アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットは、同期信号の受信時間により決まることを特徴とする、

付記 1 に記載の方法。

(付記 3) 前記送信する時間は、アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットの始めに属することを特徴とする、

付記 1 ないし 2 いずれか一項に記載の方法。

(付記 4) 送信前に、視差設定を表す情報をメモリに記憶するステップを有することを特徴とする、

付記 1 ないし 3 いずれか一項に記載の方法。

(付記 5) 前記視差設定を表す情報は無線伝送チャンネルを介して送信されることを特徴とする、

付記 1 ないし 4 いずれか一項に記載の方法。

(付記 6) 前記立体視画像は、第 1 の画像と少なくとも第 2 の画像を含むビデオストリームに属し、異なる視差情報が各第 2 の画像に関連付けられていることを特徴とする、

付記 1 ないし 5 いずれか一項に記載の方法。

(付記 7) 第 1 の画像と第 2 の画像を含む立体視画像の視差設定を表す情報を送信するように構成された装置であって、視差設定を表す前記情報を送信するように構成された送信器を有し、

アクティブメガネのレンズが確立されたオープン状態又はクローズド状態にある時間スロットに属する、前記視差設定を表す情報の送信時間を決定するように構成された計算ユニットを有することを特徴とする、装置。

(付記 8) 前記第 1 と第 2 の画像の表示シーケンスを表す情報を含む同期信号を受信するように構成された受信器を有する、

付記 7 に記載の装置。

(付記 9) 前記立体視画像の視差設定を修正するように構成された命令手段を有することを特徴とする、

付記 7 ないし 8 いずれか一項に記載の装置。

(付記 10) 立体視画像の視差レベルを調整する方法であって、前記立体視画像は、異なる 2 つの視点による同じシーンを表す第 1 の画像と第 2 の画像を有し、前記方法は、視差設定を表す情報を受信するステップを有し、

受信した視差設定を表す情報に応じて前記立体視画像の視差レベルを設定するステップをさらに有し、前記設定は、前記第 1 の画像の表示と前記第 2 の画像の表示の間の遷移時間とは異なる時間に処理されることを特徴とする、

方法。

(付記 11) 同期信号を送信するステップを有し、前記同期信号は、前記第 1 と第 2 の画像の表示シーケンスを表す情報を含むことを特徴とする、

付記 10 に記載の方法。

(付記 12) 視差レベルが設定される前に、視差設定を表す情報をメモリに記憶するステップをさらに有することを特徴とする、

付記 10 ないし 11 いずれか一項に記載の方法。

(付記 13) 前記設定の処理時間は、前記第 1 と第 2 の画像の一方の表示に対応する時間スロットに属する、

付記 10 ないし 12 いずれか一項に記載の方法。